

丹波2050地域ビジョン

<概要版>

令和4年3月

丹波新地域ビジョン検討委員会

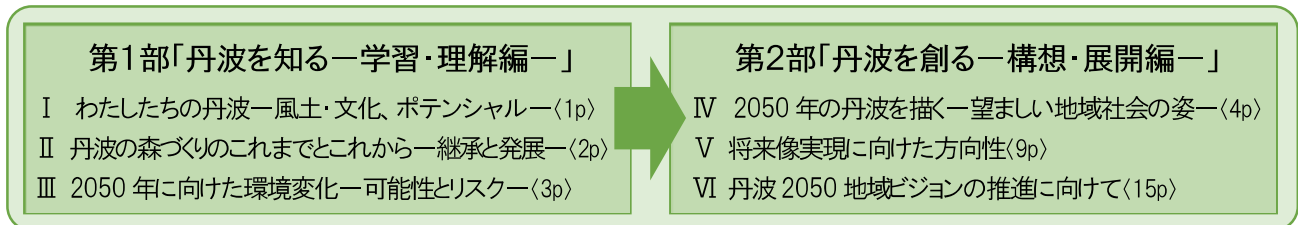
兵庫県丹波県民局

＜丹波2050地域ビジョンとは＞

- ◆ 2050年を展望して望ましい地域の将来像、ビジョンを描き、2030年代初頭までのビジョン実現に向けた道筋、方向性を示しています
- ◆ 参画と協働の理念のもと、地域外の人も含めて、丹波に関わる全ての団体・個人で共有し、取り組むビジョンです
- ◆ 『挑戦・成長』をキーワードとする『未来志向のビジョン』です



- ◆ 第1部「丹波を知る—学習・理解編—」(I～III章)と第2部「丹波を創る—構想・展開編—」(IV～VI章)の2部構成になっています



(注) 図中のpは概要版のページ番号

＜第1部 丹波を知る—学習・理解編—＞

I わたしたちの丹波—風土・文化、ポテンシャル

- ◆ 丹波の将来を考えるにあたっては、まずその風土・文化の魅力、ポテンシャルを再確認する必要があります。
- ◆ 丹波2050地域ビジョンでは、「地勢・地質」、「共生」、「豊穰」、「伝統」、「交流」、「気質」の6つのキーワードのもと、その魅力を明らかにしています

【地勢・地質】

- ・本州一標高の低い中央分水界(水切れ)、多様な生き物が行き交う「水上回廊」
- ・篠山層群: 農村風景と恐竜が共存



丹波竜モニュメント (丹波竜の里公園: 丹波市)

【共生】

- ・75%が森林で覆われる「森の国」
- ・加古川、由良川、武庫川の「源流の里」
- ・里山等での自然、生き物とのふれあい



クリンソウ群落 (妙高山)

【豊穰】

- ・盆地特有の気候と肥沃な土壌から生まれる特産品の数々—丹波栗、丹波大納言小豆、丹波黒大豆、山の芋、猪肉など



古来よりのブランド 丹波栗

【伝統】

- ・古からの文化・文物が脈々と受け継がれてきた地
- ・日本遺産(デカンショ踊り、丹波立杭焼)



デカンショ節 (日本遺産)

【交流】

- ・街道の要衝としての歴史
- ・多くの人、ものを運んだ加古川、竹田川の舟運
- ・半世紀に及ぶ都市農村交流



福住地区の歴史的街並み (丹波篠山市: 伝建地区)

【気質】

- ・温厚な人々、寛容性に富んだ風土
- ・強い集落の絆



温かい丹波の人々 (丹波篠山市)

Ⅱ 丹波の森づくりのこれまでとこれから—継承と発展—

- ◆ 丹波では、「丹波の森宣言」（1988（昭和63）年9月1日）以降、30年以上にわたって、「丹波の森づくり」と呼ばれる特色ある地域づくりが行われてきました
- ◆ 自然との共生や、ふるさとづくりを謳う森づくりの理念は、SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）や地域創生の考え方とも相通じるところがあります

■ 丹波の森づくりの理念、活動

<「丹波の森」、「もりびと」とは>

- 丹波の森＝『私たちを取り巻く全ての環境』（森林、田園、集落、まちを含む空間全域、人、生き物全ての営み、丹波の風土・文化、生業、人々の結びつき、ネットワーク）
※ 丹波2050地域ビジョンで「森」と表記するときは「丹波の森」を意味しています（通常の森は森林と表記）
- 丹波の森づくり＝『人と自然と文化の調和した地域づくり』であり、『みんなの共通のふるさとを創っていこう』とする試み
- もりびと＝『「森」を愛し、「森」を守る人たちの総称』
『伝統を守りながらも未来社会を切り拓く活動的、能動的人材』



<「丹波の森づくり」の取組と成果>

- 丹波の森づくりは、里山づくり、水辺再生、農地保全、希少動植物保護、景観形成、公園整備、文化振興、歴史遺産保全、賑わいづくり、都市農村交流、人材育成など、様々な分野へと広がってきました
- この森づくりの取組を通じて、制度の整備、担い手の形成、ネットワークの構築、拠点の形成、特色ある活動の展開、市民精神の広がり、ふるさと意識の醸成などの点で成果がみられました。この成果を活かしつつ、これからの地域づくりを進める必要があります



里山づくり活動



たんばオープンガーデン



街角コンサート
(シューベルティアアデタんば)



子どもたちの自然体験学習
(丹波縄文の森塾)



丹波の森づくりの活動フィールド
(丹波並木道中央公園)

■ 地域ビジョンの評価検証

<詳細は資料編を参照>

- 丹波の森づくりの理念を踏まえて策定された丹波地域ビジョン（改定版）（2011年策定）の将来像（『自立』、『交流』、『元気』、『絆』、『安全安心』）の達成状況を検証したところ、全体としてはこの10年間一定程度進展があったことがうかがえます
- しかし、まちの活力、子育て環境、高齢者の暮らしやすさなど個々の課題も明らかになり、人口減少・高齢化の中、コミュニティ機能の低下も大きな課題となっています
- 丹波2050地域ビジョンでは、こうした課題の解決に向け、新たな取組を進めます

■ これからの森づくりに向けて

- 丹波の森づくりの活動が広がり、様々な成果が生まれた一方で、若い世代を中心に森づくり自体知らない人も増えています。今一度、原点である理念に立ち返り、森づくりの気運を高めていく必要があります。森づくりの理念は、人口制約、環境制約により持続可能な社会への転換を迫られる今日、これまで以上に大切なものになっています
- このため、丹波2050地域ビジョンを丹波の森づくりの「継承と進化」をめざすものと位置づけます。丹波2050地域ビジョンの推進を通じて、丹波の森づくりや地域ビジョンの理念を継承し次の世代につなぐとともに、SDGsの達成はもとより、森づくりがめざす持続可能な社会の実現に向け、時代の変化に対応した新たな取組を進めていきます

Ⅲ 2050 年に向けた環境変化—可能性とリスク—

- ◆ 将来像を描くにあたっては、これからの社会の環境変化を踏まえる必要があります。丹波2050地域ビジョンでは、人口減少・高齢化、環境・資源制約、超スマート社会、人々の意識変化の側面から今後の可能性とリスクを明らかにしています

■ 長期的な人口減少・高齢化—人口減少社会への対応

- 兵庫県人口推計によると、丹波地域の2050年の人口は、2020年人口から40%近く減少し、6万人台にまで低下。高齢化率は2050年に50%近くまで上昇すると予測されています
- 地域の持続的発展に向けては、一人多役の社会や生涯現役社会の実現、関係人口の拡大による地域活動総量の拡大をめざす必要があります
一方では、スマート技術の活用により、人手をかけない地域経営のあり方を考えることも重要です
- 長期的な傾向として人口減少は免れ得ないものの、近年、移住者の数は増加傾向にあります
この傾向が定着すれば、現在の推計よりも人口減少を抑制できる可能性があります

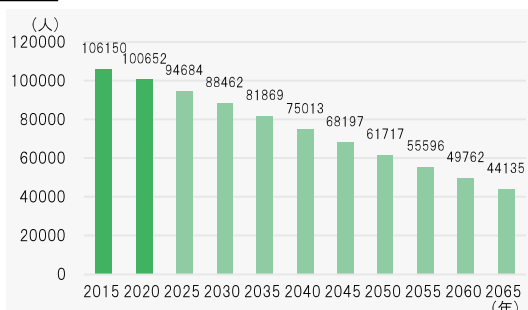


図 丹波地域の人口予測 (2015年～2065年)

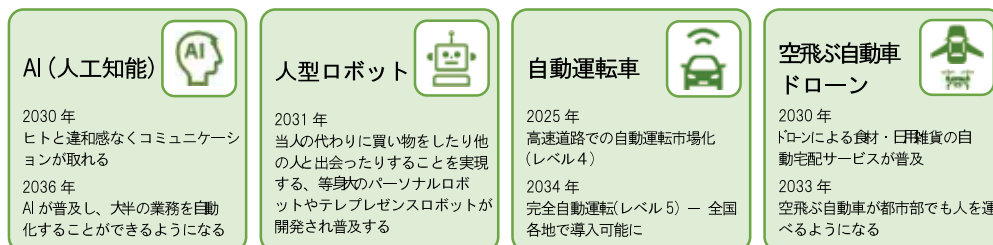
■ 環境制約・資源制約の深刻化—ローカル・アクション^{※1}の方向性—

- 地球温暖化に伴う気候変動の影響が懸念されています。食の豊かさを誇る丹波でも、今後農産物に変化が起きるかもしれません。化石燃料等の資源枯渇や食糧需給の逼迫も懸念されます
- 丹波の森づくりやSDGsの理念に沿って、脱炭素の地域づくり、食の地産地消、資源の循環利用、共有経済(シェアリングエコミ^{※2})の構築、エネルギーの自律・分散化などを地域主体で進めることで、環境負荷をかけない持続可能な地域社会の構築が期待されています

※1 地域の主体的行動 ※2 個人等が保有する空間やモノ、移動手段、知識・スキルなどの資産を、インターネットを介して他の個人等も利用できるようにする仕組み

■ 超スマート社会の到来—地域社会の新たな可能性—

- デジタル技術の活用により、多自然地域でもきめ細かなサービスの提供が可能になります。自動走行車の普及で高齢者等も自由に移動でき、多自然地域の居住地、就業地としての可能性が高まります。仮想空間を介して、地域を支える多様な担い手の確保が可能になります
- AI(人工知能)やロボットの活用により、人は仕事や家事から解放され、創造的な活動に使う時間が増えていきます。居住地、滞り場所の選択にあたっては、創造的活動をしやすい場であることが重視されるようになります
- 地域社会の空間・ストック(森林・田畑・家屋等)管理や生産・流通・販売現場において省力化、自動化、無人化が進みます



(「第11回科学技術予測調査」(2019) [文部科学省科学技術・学術政策研究所]を加筆・編集)

図 主要スマート技術の将来予測

■ 人々の意識、価値観の変化—暮らしやすい地域社会、チャレンジできる地域社会の実現—

- 丹波の人たちの生活意識や価値観の多様化に対応し、様々なライフスタイルの選択が可能な地域づくりを進めることが、地域の魅力向上につながります。デジタル技術も駆使して、一人ひとりの暮らしに寄り添ったサービスを実現することが期待されています
- 多様な人材が自らの知識や技能を活かして活躍することで、地域の力は高まっていきます。このため、誰もがしごとや地域づくりにチャレンジできる仕組みを築くことが重要になります

＜第2部 丹波を創る－構想・展開編－＞

IV 2050年の丹波を描く－望ましい地域社会の姿－

- ◆ 地域のポテンシャルやこれまでの地域づくりの成果を踏まえつつ、将来社会の潮流変化を見据え、2050年の丹波の望ましい地域社会の姿を描いています

■ めざすべき将来の姿－基本理念－

人と技術の力を活かした、自然の中での多彩な暮らしのカタチの創造・発信
－「人」を創り、「森」を（守り）活かし、新たな「価値」共創に挑む－

＜「丹波の森」は「未来社会の暮らしの実験場」、「共創空間」に＞

- ◇ 人：最大の資源。人の創造力・想像力が地域を変える源に
- ◇ 技術：人口減少や環境制約の克服、生産性の向上に大きく貢献
- ◇ 「森」：守るべき存在であるとともに、暮らしを豊かにするために活用すべき貴重な資源
- ◇ 価値：丹波らしいオンリーワンの魅力（固有価値）の創出、世界に広がる持続可能な自律分散型居住モデル（普遍的価値）の創造
- ◇ 共創：目標を共有（「共感」）する人たちが、ともに学び、ともに成長し、ともに創る

■ 2050年の地域社会像

- ◆ 基本理念を踏まえつつ、2050年の地域社会像を次ページ以降に空間像（p.5）、社会経済像（p.6）、人間像（pp.7～8）の観点から具体的に描いています

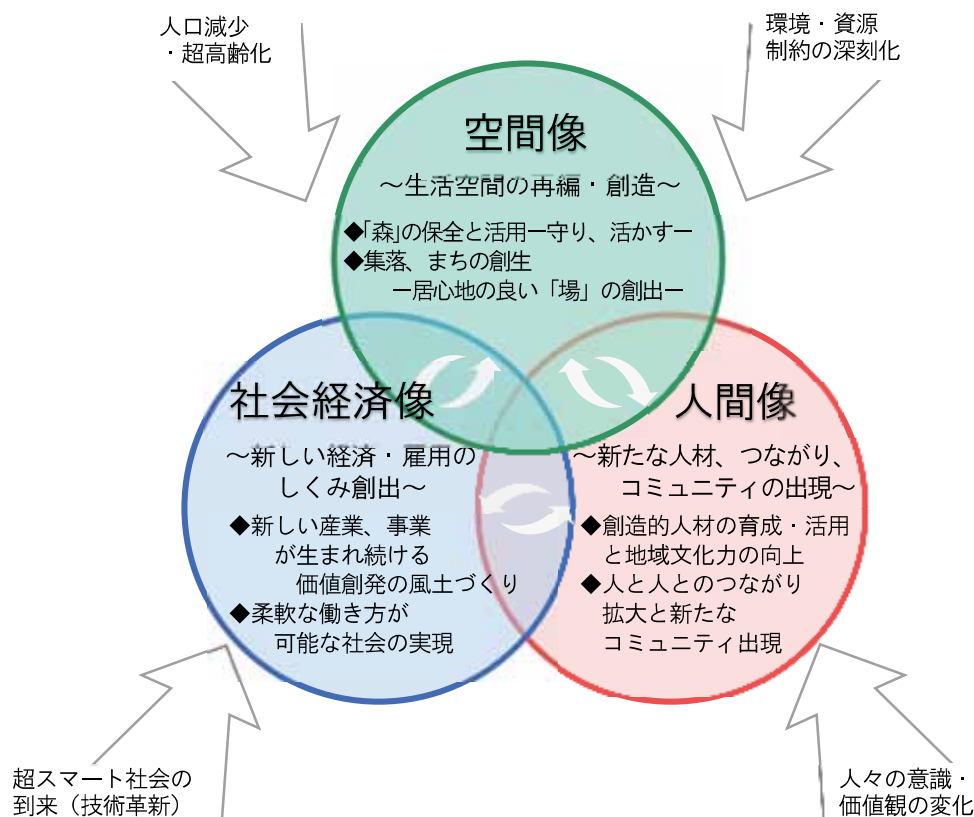


図 丹波 2050 地域ビジョンの地域社会像

◆ 「森」の保全と活用—守り、活かす—

・丹波固有の環境・景観は変わることなく、未来へと受け継がれている一方で、空間の効率的
管理、有効活用が進みます

◆ 集落、まちの創生—居心地のよい「場」の創出—

・新しい時代の暮らし方、住まい方、働き方に適した空間として、集落、まちは変化してい
きます

○ 100年前と変わらない、多様な生き物が棲む豊かな森が残っています。憩い
の場や暮らしの場としての森、里山の利用が拡大しています（→V章展開方
向①）



○ 森は生業・生産の場、資源、エネルギー源として再生しています。麓の集落
では、木質バイオマスを主体とした再生エネルギー自給率100%を達成して
います（①・④）



○ 河川では、治水安全度が向上し、自然に配慮した川づくりが進んでいます。
水辺には子どもたちが水遊びを楽しめる空間や、生き物が生息しやすい多様
性に富んだ環境が育まれています（①）



○ 集落では、共有化の進展とデジタル管理技術の導入で、家屋、土地やコミュ
ニティのシンボルの保全が図られています。関係人口が集落に日常的に滞在
し、地域の担い手として活動しています（③）



○ 居住者がいなくても維持・活用される集落として、農業生産施設やスポー
ツ・文化施設、まるごとホテル、ビジネスパークなどが出現し、まちに有人
の対人サービス機能が集約されています（③）

○ 集落、田畑、里山、水辺が保全され、日本の原風景的な丹波らしい景観がそ
のまま残り続けています（②）

○ まち（市街地）では歴史的建造物が大切に管理され、趣ある街並み景観がそ
のまま維持されています。その一方で、まちなかのそこかしこで古い施設・
家屋が改修され、ふれあい・交流の場（まちの居場所）、起業・創業拠点、
創造的活動の空間等へと変身し、まちはかつての賑わいを取り戻しています（⑤）

○ まちと集落の二地域居住も進展しています。まちと周辺集落で1つの「自律分散型居住圏[※]」を形成し
ています（⑤）

※持続可能な生活を可能とする基本圏域。圏域の中心であるまちには交流拠点や日常生活サービス機能が備
わっています。エネルギー自給や地産地消等の推進を図る基本単位でもあります



◆ **新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり**

- ・ 超スマート社会の到来とともに、新しい産業構造が出現し、新たな製品・サービスが生まれています
- ・ 移動のパーソナル化に伴い、人の移動が飛躍的に拡大し、多種多様なツーリズムが勃興しています
- ・ シェアリング・エコノミー^{※2}が発展し、新たな地域経済循環が生まれています

◆ **柔軟な働き方が可能な社会の実現**

- ・ しごとのスタイルは大きく変わります。しごとと生活の境界がなくなり、各人のライフスタイルにあわせた柔軟な働き方が可能になります

○ 地域産業、農林業、IT 産業の融合、産学官民の連携により、**地域発イノベーションを起こす新たな仕組み、ネットワーク**が形成され、**起業・創業しやすい環境**が生まれています（→V章展開方向⑨）

○ **デジタル技術を活かし、地域資源を活用した新しい製品・サービス（MORITEC[※]）**が開発され、世界市場に提供されることで、新たな収入や所得が生み出されています。地域で創り、産み出す「**地創地産**」・「**地産地創**」の実践が図られています（⑧・⑨）

※ MORITEC=森、農、食、コミュニティの分野における DX（デジタル技術によるサービス革新）

○ **フードバリューチェーン（食関連産業の集積・連携）**が形成され、付加価値の高い商品・サービスの開発が進みます。丹波は食材の供給基地から新たな**食ビジネス、食文化ツーリズム、食文化の創造・発信拠点**へと転換していきます（⑥・⑦・⑧・⑨・⑪）



○ **多拠点居住の拡大やツーリズムの多様化・脱観光化**に伴い、**訪問者・滞在者が増加**し、ツーリズムが地域経済の主要産業の1つとしてさらなる成長を遂げます（⑦）



○ **生産・流通・サービス活動、空間管理の現場における無人化、省力化、自動化**が進みます（無人農業、無人店舗、ロボット介護等）（⑨）

○ **マルチワーク（兼業・副業）が基本**になり、多くの人が多様な有償・無償のしごとの組み合わせにより自らのライフスタイルを創造するようになります（⑩）



○ **森、集落、まちの至る所にワークスペース**が出現します。その日の気分や都合でどこでも働くことができるようになります（⑨・⑩）

○ 域外居住者でも、**丹波を仕事場とする人が増えています**。多くの人週末滞在やテレワーク等によって、丹波での起業や伝統産業の継業、創造活動等に挑んでいます（⑩）

○ **シェアリング・エコノミー^{※2}**のもと、**空間、モノ、移動手段、人材（知識・スキル）等の共有化、相互利用**が進展します。それにより、社会ストック、人材の有効活用や働き方の多様化が進むとともに、『**モノを持たない、お金をかけない環境に配慮した暮らし**』が可能になります。デジタル通貨が共有経済の基軸通貨になります（⑩・⑱）

◆ **創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上**

- ・ 自然と共生する、持続可能な暮らしが基本であり続ける一方で、多彩なライフスタイルが花開く場となります
- ・ それが魅力となり、丹波を居住、活動の場を選択する創造的人材が増える一方で、体験、学習を通じて地域の中から創造的人材が育っています

◆ **人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現**

- ・ 丹波を愛し、丹波を支える人たちのネットワークが地域を越えて拡がり、丹波外に居ても丹波の担い手になる人が増えています
- ・ デジタル技術の活用や仕組みの革新により、より安心、便利に暮らせる生活環境や誰もが能力を発揮できる基盤が整備されたコミュニティが出現します

- 丹波ならではの自然とのふれあい、食の豊かさ、農の楽しみを享受しつつ、**やりたい暮らし、しごとを実現し、個性的なライフスタイルを謳歌**している人が増えています（→V章展開方向⑪）
- 年齢、性別、国籍、障がいの有無に関係なく、**誰もが担い手（もりびと）**となって**地域社会の中で自らの役割を見出す**ことができるようになります（⑬）
- デジタル技術を駆使し、**地域課題の解決や暮らしに役立つサービスの開発に挑むイノベーターとしての市民（もりびと）**が輩出されます（⑫）
- **100歳超のシニアがAI（人工知能）、ロボットの助けを借りて現場で活躍**できるようになり、伝統技術の継承や担い手の育成も進んでいます（⑫）
- **地域固有の文化を継承**しつつも、創造的活動の場として、内外から多種多様な人々を招き入れることで、**新しい文化の発信拠点へと発展**します（⑭）
- 世界の英知が丹波に結集し、**多国籍チームで地域課題の解決**にあたっています（⑮）
- 自然体験、ふるさと学習、環境学習等を通じて、**子どもたちが感性と知性のバランスのとれた創造力（想像力）豊かな人間へと成長**し、創造的活動の担い手になっています。家庭を基盤とした地域コミュニティが、子どもたちのたくましい心や生きる力を養う場であり続けています（⑯）
- e-ラーニングによって、子どもから大人まで、**一人ひとりの関心・ニーズに応じた教育プログラムが提供**され、今以上に**主体的に学べる環境が生まれています**。AI（人工知能）が家庭教師役となり、子どもたちは質の高い科学教育、情報教育を受けています（⑮）
- 地域コミュニティでは、地域の資源、産業、文化を介して、住民、訪問者、滞在者、利用者、所有者、出身者、支援者等の間に**新しい地縁、絆が幾重にも生まれています**。その重層的なつながりがコミュニティを支えています。そのつながりによって、災害時などに域外から支援の手が速やかに差し伸べられています（⑰）



- 自治会・地域運営組織が**仮想コミュニティ化し、電子市民**としての関係人口の参画を得ながら、地域自治・経営を進めていますー**デジタル・ガバナンス***の推進 (③・⑱)

※仮想空間を介して組織や地域の経営・運営を行うこと

- 地域情報のビッグデータ化とAI(人工知能)の導入により、個人のニーズに寄り添った情報が配信されるようになり、災害時の避難も安全に行えますー**情報のパーソナル化** (⑱)

- **空の移動革命**が現実のものとなります。丹波の空を「**空飛ぶ車**」が飛び交い、いつでも、どこでも行きたいところに行ける時代になりますー**移動のパーソナル化** (⑱)

- デジタル技術を活用して、子育て、介護を地域社会全体で支える**新たな共助の仕組み**が構築され、必要なときに必要なサービスが使える**シェアリング・エコノミー**2**が発展していきます (③・⑱)



検討委員会メンバーが描く未来の丹波

- 私が夢見る30年後の丹波地域は、太陽光・風力・バイオマス発電などでエネルギーが、農地整備で食料が、森林資源で住宅材が自給できる、三世同居家庭が広がる田園地帯 (岸 孝明 委員)
- 数百年にわたり丹波は時代の変化を見すえ、進化し前進してきました。このしなやかな強さを持ち続け、30年後も進化を模索する丹波であると信じています (光井 将一 委員)
- 世代や地域を越えて、住む人や関わり続ける人が、誇りを持ちづけられる丹波であってほしい。誰もが様々な可能性にチャレンジし続けられる丹波であってほしい (角野 幸博 委員長)
- 30年後の丹波地域は昔ながらの自然を活かし地域の強みが出せる、地域資源や人材が豊富で、明るい豊かな丹波地域になってほしい (足立 雄一郎 委員)
- 一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める丹波地域 (藤田 尚位 委員)
- 「丹波で農業をすることに憧れる！」そんな丹波にしていきたい (宮垣 良一 委員)
- 自然と景観を機能的に保全し、経済社会と共存する仕組みが無理なく確立され、主体的に地域を考える大人と未来を担う子どもが文化的に暮らし、健やかに育つ地域へ (安達 鷹矢 委員)
- 丹波の新しい未来をつくる仲間を増やせば、ふるさとを守る人が増える！合言葉は、「丹波の未来を今つくらなければいつできる！わたしたちが盛り上げなければ誰がやる！」 (平櫛 武 委員)
- お母さんが心から幸せになれば子どもも幸せになれる。幸せを感じられるように一緒に学び、働きましょーう！もっと輝きたいあなたのために、選ばれる丹波地域にしていきます！ (谷水 ゆかり 委員)
- ずっと住んでいる人も、移住した人も、あらゆる世代が「居心地のよい、働きがいのある私のまち」「ずっと守りたい私のふるさと」と自慢できる丹波になっていると思います (清水 夏樹 委員)
- 丹波の自然や歴史を活かした多様で豊かな丹波暮らしが定着し、多くのもりびとが丹波の魅力創出と課題解決に向かって行動を起こし続けている丹波になって欲しいと思います (上南木 昭春 委員)
- (30年後の人に向かっての呼びかけとして) 2050年は、必要な物は届いていますか？お医者様には診て頂いていますか？里山の風景は変わりありませんか？お幸せに暮らしておられますか？2022年の願いは実現していますか？ (土性 里花 委員)

※ 検討委員会の構成メンバーの名称、役職等は本編 p49 に記載

V 将来像実現に向けた方向性

- ◆ 将来像実現に向けた 2030 年代初頭までの概ね向こう 10 年間の取組の方向性（展開方向）を示しています
- ◆ 各展開方向に沿って今後 5 年間で推進すべき取組のうち、特に重要な 12 の事業を「シンボル・プロジェクト」に選定し、今後重点的に推進することとしています

■ 空間像—生活空間の再編・創造—

◆ 「森」の保全と活用—守り、活かす—

(注) プロジェクトの表記：展開方向の主要事業(●)色、関連事業(○)色

展開方向① 森・川・里の自然再生・活用 ▶ プロジェクト(A)、(J)

- 災害に強い豊かな森を広げます
- 丹波産木材の利用拡大を促進します
- 里山（森林）の保全・再生に努めます
- 源流域の生態系を守ります
- もりびとの自主的な活動を継続的に支援します



▲ 野生動物共生林整備 (丹波市)



▲ 畑川親水施設 (丹波篠山市)

展開方向② 景観の保全—温かくて、懐かしい丹波の景観を残す— ▶ プロジェクト(A)

- 原風景や歴史的景観を守り、未来に残していきます
- 丹波らしい景観を楽しめるまちづくりに努めます
- 花に彩られたまちなか・集落景観の創造を進めます



河原町妻入商家群 ▶ (丹波篠山市：伝建地区)



▲ 桜づつみ回廊 (丹波市：佐治川)

◆ 集落、まちの創生—居心地のよい「場」の創出—

展開方向③ 集落保全の仕組み構築—未来へとつなぐ集落資産— ▶ プロジェクト(B)

- 集落空間・資産を未来に引き継ぎ、伝統的景観を守っていきます
- 農地や里山等の維持につながる地域での共同活動の継続・拡大を支援します
- 関係人口等が参画しやすい開かれたコミュニティづくりに努めます
- 集落の防災力向上に取り組みます



▲ 農地維持活動（水路の泥上げ） (丹波市)



▲ 空き家を活用した交流拠点「村の駅真南条」 (丹波篠山市)

展開方向④ エネルギーの自律分散供給—地産地消の実現— ▶ プロジェクト(L)

- エネルギー自給率 100%コミュニティの実現を目指します
- バイオマス発電^{※3}の拡大を進めます
- バイオマス利用の啓発・普及を支援していきます

間伐材の搬入風景 ▶ (木の駅プロジェクト) (丹波市)

※3 動植物などから生まれた生物資源を「直接燃焼」や「ガス化」して行う発電



▲ 木質バイオマス発電施設 (丹波市)

展開方向⑤ 次世代都市空間の創造—懐かしくも新しい、快適なまちへ— ▶ プロジェクト(C)

- まち（市街地）の歴史遺産の未来への継承をめざします
- 賑わいのあるまちの再生に向け、多世代が歩いて暮らせるまちの実現を促進します
- 新しい暮らし方、働き方に対応した次世代都市の実現をめざします
- 2030 年代初頭における継ぎ目のない移動（交通）システムの確立をめざします

※4 時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した短距離の移動サービスで、その車両も含めた総称



▲ グリーンスローモビリティ^{※4}の実証実験 (丹波篠山市)

空間像 シンボル・プロジェクト

① アクティブ・フォレスト・プロジェクト

(注) ★プロジェクトにおける主要項目 ☆関連項目

- ★丹波の森づくりの次世代への継承を目的とした住民参加型の取組として推進（←展開方向①）
- ★住民、サポーター、学校、企業など多様な主体が連携し、里山（森林）整備や森林管理、資源循環、希少生物保護、環境学習、もりびと育成等を推進（←①）
- ★里山の情報発信を強化し、その見える化を図ることで、里山に入る人の数を拡大（←①）
- ☆里山景観の保全、森の景観美の発信、森の景観を守るもりびとを育成（←②）



▲里山づくり体験会
(丹波市)

② 持続可能なコミュニティ・プロジェクト

- ★モデルコミュニティにおいて、集落、農地、里山の空間・ストック管理と集落運営の仕組み刷新を推進（←展開方向③）
- ★空間・ストックを有効活用し、新たな事業・サービスを創出（←③）
- ★関係人口等新たな担い手の発掘・育成に向け、仮想コミュニティの構築や新たなコミュニティ・ルールの形成を促進（←③）



▲交流拠点として再利用された旧雲部小学校 (丹波篠山市)

③ まちの拠点創造プロジェクト

- ★柏原地区等において、まちの交流ゾーンとしての求心力向上に向け、多拠点居住やテレワーク等新たな暮らし方、働き方にも対応した複合的な都市機能整備を官民共同で推進（←展開方向⑤）



▲柏原市街地遠景
(丹波の森公園裏山からの遠望)

<関連する人間像シンボル・プロジェクト>

④ たんばユース躍動プロジェクト

- ☆森の豊かさ、里山の暮らしを学ぶ体験学習の実施（←展開方向①）

⑤ スマート・コミュニティ・プロジェクト

- ☆エネルギー面での自律分散型コミュニティの実現に向け、検討会を設置（←展開方向④）
- ☆地区・集落へのバイオマス等の再生可能エネルギー導入に係る技術的、経済的検討を実施（←④）



▲間伐材の伐採風景
(木の駅プロジェクト)
(丹波市)

コラム-10代の考える丹波地域-

丹波県民局では、丹波地域に関わりのある方々およそ1000人を対象に、「丹波地域の今とこれからの関するアンケート」をweb上で実施しました。集まった回答のうち、10代の若者の意見を紹介します。

「あなたは地域にどんな貢献ができますか」という問いにおいて、

- ・丹波地域に住み続けること、帰ってくること
- ・地域の魅力を広め、伝えること
- ・地域の食材を使い、地産地消に努めること
- ・地域への学びを深め、今と未来をつなぐこと

といった回答が、10代に多くみられました。

丹波地域のふるさと教育の成果が、これらの回答にも表れてきているのかもしれませんが。ふるさとを大切に思う彼らが、丹波地域に安心して住み続け、帰ってこられるための受け皿としての環境づくりもまた、私たちが考えていかなければならない重要な課題の1つです。

また、夢のある丹波地域の将来を描く若者もいました。例えば「総合運動施設を作って地元スポーツチームを編成し地域の一体感や経済効果を生み出す」「昔の著名な俳人を朝ドラの主役にする」といった提案です。丹波2050地域ビジョンでは、このような若者の柔軟な発想を活かし様々な取組を推進していきます。



■ 社会経済像—新しい経済・雇用のしくみ創出—

◆新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり (注) プロジェクトの表記：展開方向の主要事業(馬)色、関連事業(馬)色

展開方向⑥ 農の持続化・効率化とフードバリューチェーンの構築 ▶ プロジェクトD E F

- 農の持続可能性の向上に向け、多様な人材の確保などに努めます
- スマート農業による省力化・効率化、農地の集積・集約化を進め、多様な担い手の確保を進めます
- 無人(全自動化)農林業の実現をめざします
- 循環型フードバリューチェーン(食の価値連鎖)の仕組みを構築します

ドローンによる山の芋の防除
(丹波篠山市)



展開方向⑦ ツーリズムの新展開—多様化、地元化、仮想化— ▶ プロジェクトF G

- 新たなツーリズム(マイクロツーリズム、テーマ・ツーリズム)を進めます
- 通年型観光の目的地としての発展をめざします
- 食文化(ガストロノミー)ツーリズムの展開をめざします
- 森林(フォレスト)ツーリズムの展開を図ります
- 脱観光型、非観光型ツーリズムを推進します
- 丹波地域のブランド化に取り組み広域連携を進めます
- デジタル技術のツーリズムへの活用を進めます



▲ 黒豆の収穫体験
(丹波篠山市)

◀ 大納言小豆を使った菓子づくり体験(丹波市)

展開方向⑧ 製品・サービスの高付加価値化—世界市場との直結— ▶ プロジェクトE F G H

- 付加価値の高い製品・サービスの開発をめざします。世界市場への挑戦を後押しします
- まちづくりと一体となった商業振興策を推進します
- 地域性、ストーリー性を持った商品・サービスの開発に取り組みます

展開方向⑨ シリ丹バレー構想の推進—エコシステム創出、DX化推進— ▶ プロジェクトH I

- 地域発イノベーションの創出をめざします
- 地域イノベーション・エコシステムの構築を図ります
- ICTを活用した地域産業の生産性向上に挑みます
- 優れた人材・技術の域内への流入や外部からの投資の促進を図ります
- 地域課題の解決に資するビジネスや地域資源を活かしたビジネスの立ち上げを進めます
- イノベーション創出に向けた新しい交流、情報交換、知識共有の場と機会を創出します
- 新しいビジネス空間・場の創出を進めます

旧校舎のオフィスで働く
IT起業家
(旧福住小学校：丹波篠山市)



◆柔軟な働き方が可能な社会の形成

展開方向⑨ シリ丹バレー構想の推進—起業・事業承継支援— ▶ プロジェクトH

- 誰もが起業しやすい環境づくりを進めます
- 様々な分野で事業承継を推進します

展開方向⑩ 多様なワークスタイルの創出 ▶ プロジェクトB K

- 就業体験機会(インターンシップ等)を拡大し、人材の共有化、相互利用を促進します
- 多種多様な小口のしごとのマッチングを進めます
- 副業人材の発掘・活用を進めます

しごと体験
(丹波篠山市福住地区)



展開方向⑪ 多彩な食農人材の集積促進 ▶ プロジェクトE F K

- 丹波における農のある暮らしの魅力を訴求します
- 多様な農のある暮らしの実現を支援します
- 農、食の異能人材の流入を促進し、食文化の発信拠点への転換をめざします

全国から新規就農希望者を受け入れている
丹波市立農(みのり)の学校



社会経済像 シンボル・プロジェクト

㊦ たんばスマート農林業特区プロジェクト

(注) ★プロジェクトにおける主要項目 ☆関連項目

- ★効率化、省力・軽労化を進めるスマート技術の確立を図るとともに、技術活用の仕組みづくりを進め、域内へのスマート農林業の普及拡大を推進（←展開方向⑥）

㊧ たんばフードバレー・プロジェクト

- ★域内や近隣地域を中心に、企画開発、生産、加工・流通、販売、飲食、観光部門等の事業者間の連携を促し、ブランド農産物の高付加価値化や新たな食加工品の開発・販売を促進（←展開方向⑥）

- ☆ブランド農産物を原材料とするプレミアム食品・食加工品の開発・販売（←⑧）
- ☆多様な食農人材の公募（←⑪）



▲食品メーカーと黒大豆卸売事業者が共同開発した「冷凍丹波篠山産丹波黒枝豆」

㊨ 食文化ツーリズム・プロジェクト

- ☆ブランド農産物の収穫体験ツアー、食加工品製造工程見学ツアーの催行（←展開方向⑥）
- ★ブランド製品の収穫体験や陶芸体験など、丹波の食・食文化や食を育む風土を体感できる多彩なコト体験プログラムの充実（←⑦）
- ★ゲストハウスや農家民宿等を郷土料理とコト体験が楽しめる「たんばオーベルジュ」（宿泊施設付きレストラン）として一体的にプロモーションし利用を促進（←⑦）
- ★生産者と飲食・観光事業者等の連携により、新しい食材、料理、料理法の開発に乗り出すとともに、食にまつわるストーリーを発掘、発信（←⑦）
- ★県内大学等と連携し、若者にも魅力ある食文化ツアーを造成（←⑦）
- ☆商店・商店街と連携した食べ歩きフェアの開催、食のコト体験ツーリズムの展開（←⑧）
- ☆ブランド農産物の収穫体験ツアーの催行（←⑪）



▲地元食材を使った農家民宿の料理（丹波市）

㊩ たんば恐竜(DMO)構想推進プロジェクト

- ★篠山層群エリアを恐竜学習・アミューズメントゾーンとするため、体験・学習プログラム開発、ツーリズム造成、グッズ開発等に着手（←⑦）
- ★発信力強化に向け、事務局の法人化、専門人材の登用、サポーターの拡大等を推進（←展開方向⑦）
- ☆新たな恐竜グッズの開発・販売等（←⑧）



▲丹波竜骨格展示（丹波竜の里公園：丹波市）

㊪ シリ丹バレー構想プロジェクト

- ☆地域中核企業を中心とした企業連携の推進等（←展開方向⑧）
- ★協議会の設立や人材バンクの創設等を通じて産学官民のネットワークを形成、専門家等の指導・助言のもと地域産業のDX化を推進（←⑨）
- ★起業志望者に対しノウハウ習得や資金調達等の支援を実施。ネットワークを形成し、起業志望者・起業家間の交流・連携を促進。新たな起業スペースの発掘を促進（←⑨）



<関連する空間像・人間像シンボル・プロジェクト>

㊫ 持続可能なコミュニティ・プロジェクト

- ☆まちづくり協議会の運營業務等に対する副業人材の公募（←展開方向⑩）

㊬ スマート・コミュニティ・プロジェクト

- ☆コミュニティ・サービスのDX化推進（←展開方向⑨）

㊭ たんばスタイル（たんば暮らし）・プロジェクト

- ☆お試し就業の斡旋（←展開方向⑩） ☆農業体験ツアーの催行（←⑪）

■ 人間像—新たな人材、つながり、コミュニティの出現—

◆創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上

(注) プロジェクトの表記：展開方向の主要事業(●)色、関連事業(○)色

展開方向⑪ 多様な食農人材の集積促進 [再掲]

展開方向⑫ もりびと（担い手）の育成・発掘

プロジェクト(●) (○)

- 次世代の担い手づくりを進めます
- 市民イノベーターの参画を促します

展開方向⑬ ソーシャル・インクルージョンの推進—全員活躍型社会の実現—

プロジェクト(●) (○) (○)

- すべての人を社会の一員として温かく包み込み、互いに支え合いながら共に生きる包摂型社会の実現をめざします
- すべての人が自らの経験や能力を活かして、地域社会に能動的に参画できる仕組みを築き、地域力(問題解決能力)の向上を図ります
- ユニバーサルデザインの地域づくりを進めます



▲女性のためのスキルアップセミナー

展開方向⑭ 創造都市・創造農村の形成—文化の発信力強化—

プロジェクト① (●) (○) (○)

- 新たな文化、ライフスタイルの発信をめざします
- 集落の文化的価値を内外に広く発信します
- 丹波の森づくりの中で培ってきた芸術文化活動の継承・発展を図ります



集落の山車（丹波篠山市）▶

展開方向⑮ グローバル教育、国際理解教育の実践—世界との連携—

プロジェクト(●)

- 丹波の森大学のオープン化、グローバル化を支援します
- 多文化共生の取組を推進します
- ウィーンの森との交流や海外姉妹都市との交流を継続・発展させます

ウィーンの森親善訪問団▶



展開方向⑯ 地域子ども・子育て応援プログラムの展開

プロジェクト(○)

- 子どもたちが生きる力やふるさと意識を育める場や機会を設けます
- こどもコト体験プログラムを地域全体で開発、実践します
- 地域ぐるみで子育てを応援する体制の整備を進めます

森での遊びを満喫する子どもたち▶



◆人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティの出現

展開方向⑰ 関係人口の拡大+移住・環流の促進

プロジェクト(○) (●) (○)

- 訪問者をゲストからホストへと誘う仕掛けづくりを進めます
- モノ・サービスをシェアできる仕組みを整備し、起業支援やしごとのマッチングを強化します
- 生の声、体感情報の発信を強化し、「人が人を呼ぶ」好循環の流れの創出をめざします
- 自然や農とつながった暮らしを基本としつつ、次世代社会に適合したライフスタイルや個性的なライフスタイルの実現が可能である「たんば暮らし」の価値を再発信します
- 移住・環流対策を観光、住宅、産業振興、子育て等と連携した総合対策として展開します
- 地域を支える「人の誘致」を図り、数・質の両面から移住・環流対策を推進します

オンライン移住相談▶
(丹波市)



展開方向⑱ 次世代コミュニティの形成

プロジェクト(○) (●) (○) (○)

- 人と技術の力による安全・安心コミュニティの形成をめざします
- 高齢者等が移動しやすくなるよう各集落・地区に見合った次世代交通のあり方を検討します
- コミュニティ単位でのエネルギーの自給自足をめざします
- 循環型コミュニティの実現を図ります
- シェアリング・エコノミー※2の仕組み構築を進めます

▲介護現場でのアシストスーツの活用



人間像 シンボル・プロジェクト

① 集落文化発掘・体験プロジェクト

(注) ★プロジェクトにおける主要項目 ☆関連項目

- ★集落文化の継承・発展に向け集落・地区間の連携を促進（←展開方向⑭）
- ★集落文化への理解を深めるため、子どもたち向けの体験プログラムやコト体験ツーリズム、インターンシップなどを実施（←⑭）

② たんばユース躍動プロジェクト

- ★子どもたちが縄文時代の暮らしや里山文化を体験し、生きる力を学ぶ「丹波縄文の森塾」のアドバンスドコースとして創設（←展開方向⑯）
- ★中高生等を対象として、自然体験を通じ自然とともに暮らしてきた先人の知恵やスキルを学び、ふるさとの風土への理解を深めることのできるプログラムを開発（←⑯）
- ★プログラムを修了した中高生は丹波縄文の森塾等のチューターに（←⑯）



▲「たんば子ども塾」での
生き物採集
—高校生が講師役に—

③ たんばスタイル（たんば暮らし）・プロジェクト

- ☆自治会活動等への参画促進による関係人口の当事者化（←展開方向⑫）
- ☆関係人口が集落文化を体験できる機会の創出（←⑭）
- ★集落・地区単位での移住情報の発信（←⑰）
- ★ゲストハウスや農家民宿等を情報・交流拠点、体験ツアーの発着基地に位置づけ、その活動を後押し（←⑰）
- ★集落・地区で滞在（定住）しやすい環境づくりとして、家屋、生活物資・サービス、移動手段等をシェアできる仕組み構築を支援（←⑰）
- ★「ジョブ型移住」を推進。移住希望者にきめ細かく地域のしごと情報を提供し、マッチングを促進（←⑰）
- ☆集落・地区でのシェアハウス事業、カー・バイクシェア事業の展開（←⑱）
- ☆集落が関係人口の知識・スキルを必要とときに必要なだけ利用可能な仕組みの構築（←⑱）



▲たんば暮らしお試し滞在
(丹波篠山市)



▲移住者と地元の交流会
(丹波市)

④ スマート・コミュニティ・プロジェクト

- ☆スマート技術の導入による仕事・作業の省力化・自動化促進（←展開方向⑬）
- ★暮らしに直結する「安全・安心」、「移動支援」、「エネルギー自立」、「買い物支援」等をテーマに検討会を立ち上げ、調査研究を実施（←⑱）
- ★スマート技術の実証実験を行い、技術導入の可能性や効果を検討（←⑱）



▲山間部での空飛ぶ自動車による
移動イメージ（経済産業省HP）

<関連する空間像、社会経済像シンボル・プロジェクト>

⑤ 持続可能なコミュニティ・プロジェクト

- ☆コミュニティ・ルールの刷新により多様な人材が地域社会に関与（←展開方向⑬）
- ☆集落の文化、祭礼の継承に関係人口が参加する仕組みづくりの推進（←⑭）
- ☆関係人口等新たな担い手の発掘・育成に向けた仮想コミュニティの構築や新たなコミュニティ・ルールの形成（←⑰）

⑥ まちの拠点創造プロジェクト

- ☆古民家を改装し、住民、クリエイター、アーティストの創造的活動の場等として活用（←展開方向⑭）
- ☆まちなかでの自動運転、グリーン・スローモビリティ^{※4}の社会実験（←⑱）

⑦ シリ丹バレー構想プロジェクト

- ☆オープンイノベーションの仕組みづくり（←展開方向⑫）
- ☆女性起業家の活躍促進（←⑬）
- ☆起業家等の国際的な連携、ネットワーク形成の促進（←⑮）

VI 丹波2050地域ビジョンの推進に向けて

- ◆ 丹波2050地域ビジョンの推進にあたっては、以下のような新たな推進体制・枠組みを築き、将来像の実現に向けた取組を着実に展開していきます

■ 丹波2050地域ビジョンの推進体制

▶ プロジェクトチームの結成ーシンボル・プロジェクトの運営ー

- シンボル・プロジェクト毎にその推進、進行管理にあたる「プロジェクトチーム」を関連組織・ネットワークを母体に結成します。チーム編成にあたっては、プロジェクト推進上の課題解決に貢献できる人材を広く内外から募ります
- プロジェクトチームでは、シンボル・プロジェクトの成果目標の設定、進行管理等を行います。事業内容の企画・提案や事業実施に際しての関係機関との調整、情報発信、事業成果の検証などにもあたります

▶ たんばユースチームの結成ー次代のもりびとの活躍の場づくりー

- 丹波に関わる若者らが丹波2050地域ビジョンの推進に関わる仕組みとして「たんばユースチーム」を結成します。たんばユースチームでは、将来に向けた提案をはじめ、シンボル・プロジェクトの推進に資するアイデアの提供や事業の企画・実施、情報発信、ネットワークの形成などの役割を担います。メンバーにはプロジェクトチームの活動に参加することも期待されます
- たんばユースチームの活動と青少年を対象とした様々な体験学習、ふるさと学習やその他青少年事業との連携を推進します。たんばユースチームを体験学習等で学んだ青少年の出口、すなわち提案・実践の場となるよう組織化します。一方、メンバーは体験学習等の場にチューター、サポーターとして参加し、活動を盛り上げる役割も担います

▶ プラットフォーム TAMBA の設立ー連携の仕組み構築ー

- プロジェクトチームやユースチームの展開の上に、それらの間をつなぐ推進組織として「プラットフォーム TAMBA」の結成を図ります
- プラットフォームは、結成後、これまで地域ビジョン委員会が担ってきたビジョンのフォローアップやコーディネートを担当します。年次目標の設定や年次計画の策定等にあたるとともに、シンボル・プロジェクト間の調整・連携や新たなプロジェクトの検討を行います
- プラットフォームは、プロジェクトチームやユースチームの代表のほか、各分野のネットワークの代表、学識者、行政等で構成されます
- プラットフォームは、域内の市民・地域団体、事業者・産業界、教育機関、行政等産学官民の力を結集するとともに、域外との結びつきの強化（関係人口の拡大）を図る役割を担います。また、様々な人が地域づくりに参画しやすいように仮想コミュニティ化（地域運営のデジタル化）を推進し、参画への間口の拡大・多様化を図ります

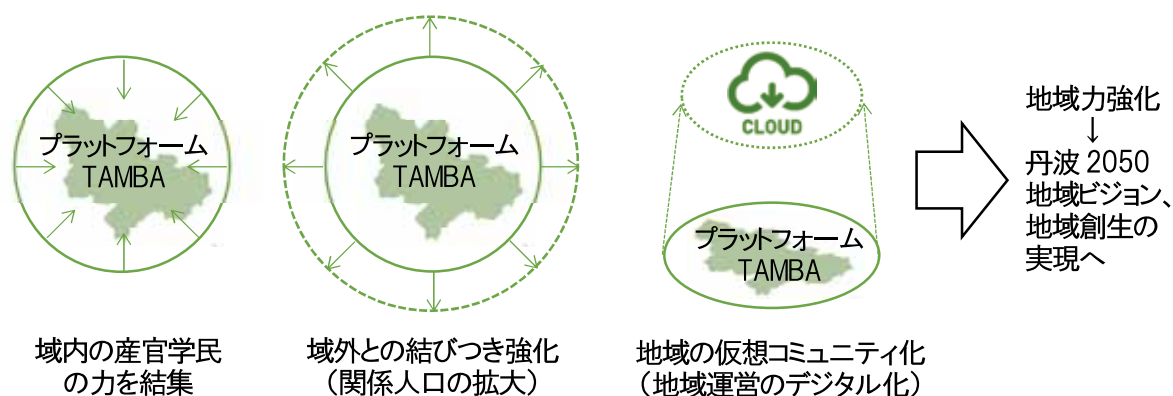


図 地域力強化に向けたプラットフォーム TAMBA の役割

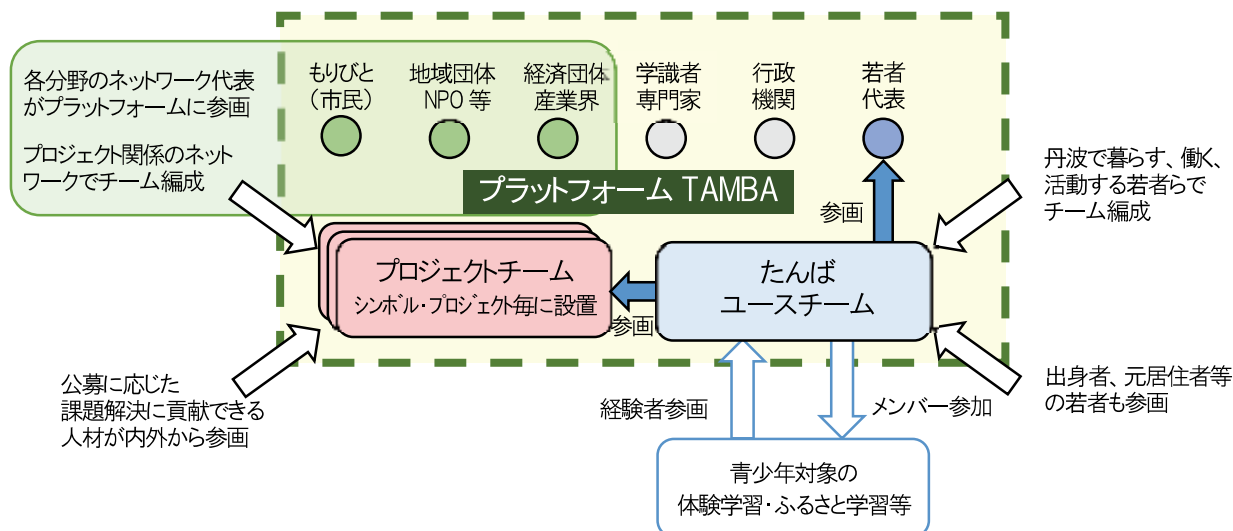


図 推進体制のイメージ

■ 共創の風土文化づくり

- ◆ 将来像の実現に向けては、推進体制を整備するだけでなく、様々な分野で共創の取組が生まれやすい風土・文化を築いていく必要があります

[挑戦できる社会、開かれた社会へ]

地域ビジョンが描く将来像の実現には、誰もが挑戦できる環境を創っていかねばなりません。意欲を持った人々が自らの知識や経験を活かして地域の中で活躍できる開かれた地域社会づくりをさらに進めていく必要があります

[想いを共有し、つながりを育む]

多彩な人材が地域に集い、世代、性別、職業、居住地等の違いを超えて想いを共有し、新たなつながりを紡いでいく。地域社会の中に幾重にも新たなつながりとしての学習と実践のネットワークが築かれることで、地域力はさらに高まっていくでしょう

[多様性が可能性に]

地域のもりびと（担い手）とつながりの多様性を高めていくことで、新たな暮らしのカタチを生み出す「共創」の取組が広がり、将来像実現の可能性は高まっていくでしょう。共創の取組によって、望ましい変化を積極的に創り出す地域社会をめざしていかねばなりません

[伝統と革新]

ふるさと丹波には、豊かな自然や景観、文化、農のある暮らしなど、先人より受け継ぎ、次世代に継承したい、たくさんの資産があります。これらの資産を将来にわたって守り伝えていくには、時代の変化にあわせて新たな知恵や工夫を生み出していかねばなりません

丹波 2050 地域ビジョンは伝統と革新という一見相容れない2つの言葉を結びつけ、地域社会に新しい変化へのうねりを興すための行動指針です。丹波という地に関わり、愛着を抱く一人でも多くの方が、この趣旨を汲み取り、将来像の実現に向け共創の環に加わることを願っています

- 丹波 2050 地域ビジョンの策定にあたっては、様々な方法で地域の方々からご意見をいただきました。その数は 1,500 件にのぼります。web 上で実施した「丹波地域の今とこれからのに関するアンケート」では、200 名以上の地域外の人からもご意見をいただきました
- これらの意見をもとに、丹波新地域ビジョン検討委員会（委員長：角野幸博丹波の森公苑長・関西学院大学教授）では 6 回にわたり委員会を開催し、2050 年に向けた丹波の将来像について議論を重ね、丹波 2050 地域ビジョンを取りまとめました
- 丹波 2050 地域ビジョンの推進にあたっては、新たな推進体制のもと、たくさんの方が意見を表明したり、様々な人がともに意見交換、議論したりする場と機会を設けていきます



兵庫県丹波県民局県民交流室

〒669-3309 丹波市柏原町柏原688

電話：0795-72-0500(内線217) 0795-73-3724(直通)

FAX：0795-72-3077 Eメール：tambakem@pref.hyogo.lg.jp